

農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

タイトル 営農経済渉外（TAC）の農業融資の取組み

JA名 あさか野（埼玉県）

1 動機 （経緯）	○ 次世代への営農活動の円滑な継続を行うため、農業メインバンク機能の強化を重点取組項目と位置づけ、融資業務に対応できる営農経済渉外（TAC）を育成するとともに金融面でのサポートに取り組んでいます。
2. 概要	○ JA独自資金であるJA農業資金（担い手応援・制度資金）のPRにより利用度の向上を図っています。 ・ 金利年1%、無担保、融資額1,000万円まで等。 ○ 平成26年9月よりTAC担当者を増員（4名→9名）するとともに、120先の重点推進先を設定して四半期に1度以上の訪問を義務付けることにより、農業融資のPRによる資金需要の発掘に取り組んでいます。 ○ 担い手リーダー（融資課長）によるTAC農業融資担当者会議を開催しています。 ○ 訪問実績について検証を行い、次回の活動につなげるべく協議・実践しています。
3 成果 （効果）	○ 組合員の営農経営について内容を理解することができるようになりました。 ○ 組合員の抱える問題点、JAへの要望等について聞き取りができるようになりました。 ○ 認定農業者制度の理解を深めメリットを組合員に伝え、相談できる提案が行えるようになりました。 ○ 平成26年度農業資金実行実績 19件 96,010千円
4 今後の 予定（課題）	○ 引き続き継続訪問を実施し、常に農業資金のPRをしていくことで更なる利用者の拡大を図ります。 ○ 行政と連携した認定農業者の増加を図ることが必要と考えます。 ○ 農業資金利用者だけでなく、営農・経営相談まで幅広く相談活動ができるTACの育成が必要と考えます。